



35周年記念

商和会のあゆみ

(Ⅲ)

昭和60年11月17日

五日市町商和会

目 次

35周年を迎えて	1 頁
五日市町と商和会の沿革	2
五日市町商店街・新旧写真	3
各部概要	7
回 想	15
年 表	16
会員等の推移	18
歴代会長・役員表	19
会 員 名 簿	21

商和会創立35周年を迎えて

五日市町商和会

会 長 小 峰 利三郎



昭和26年春、商和会として再発足して早いもので35周年を迎えました。

五日市町の商店の大半が加入し、初代会長に小川善右衛門氏（花屋呉服店一下町）をお願いして、当初は会場もないため、下町の菊屋さんの家で会長を中心に車座になって役員会を行った事も思い出されます。

その後28年に仲町の商店が銀座会結成のため退会しましたが、商和会は一致団結して、会長の熱意ある努力により会の内容も徐々に充実して、種々な事業も行ってきました。小川会長が亡くなられるまでの18年間実によく会のためにご尽力されましたことに会員皆様と共に深く感謝申し上げる次第でございます。

昭和44年、第二代会長に近藤栄氏（十一屋一東町）の就任を見ました。氏は実直、穏和で会員の信用を一身に受け、会も益々発展の一途をたどり、昭和50年に第三代会長 乙戸精一氏（留原屋一下町）に引きつぎました。就任早々、商和会創立25周年に当り記念事業を実施し、以後60年退任するまでの10年間、商和会の充実発展に寄与し、その功績は歴代会長におとらず大変立派であり、衷心より深く感謝を申し上げる次第です。

なお、この10年の間、経済の変動もさることながら、当五日市町でも都道1・3・2号線の拡幅工事が進められ、又、大手スーパーの進出もあり、商店街もその様相を一変いたしました。

かかる重大な時に、役員互選の結果、第四代会長に就任いたしました。たまたま五日市町も合併30周年を迎え、諸記念事業の行われる今年、商和会も創立35周年を迎え、記念事業を行うことになりました。

会員皆様の絶大な御支援、御協力をお願い申し上げます。

そしてこの輝かしい記念行事を契機に、秋川溪谷の玄関口にふさわしい商店街として、会員皆様と共に創意工夫と努力を重ね、一致団結して、会の発展、町の発展のために寄与したく念願する次第です。

五日市町と商和会の沿革

多摩地方は初めばく然と東国又は吾妻と呼ばれた西武蔵の一部であった。古代武蔵野は大森林でそれが原始時代に半森林となり奈良朝には草原に変わって徳川の開墾時代を経て今日に至った。

徳川時代には天領として代官制度の下に治められ300年前の明歴3年に江戸の大火の際は奥多摩地方の木材を筏に組み江戸におくりその再建に協力した五日市町はその名の示すとおり町の中心部の五日市に古くから市がたった。市の起源ははっきりしないがすでに戦国末期に村名を使われているところをみても相当古くから起っていたものと思われる。秋川の溪谷に立地する集落は山方と里方の物資の交換場所として適当であり毎月5と10のつく日つまり月6回定期の市がたった。また当地で生産された黒八丈は別名五日市としてその名は全国に知られ、木炭の取引量の多いことも関東西部で著名である。明治5年廃藩置県により神奈川県管轄に入り明治13年五日市村は五日市町となり、当時三多摩で町をとなえていたのは府中、八王子、青梅だけしかなかった。明治22年市町村制の施行に伴い五日市町と小中野村で五日市町に小和田、留原、高尾の三村で三ッ里村に館谷、入野、深沢の三村で明治村に山田、網代、伊奈、横沢、三内の5村で増戸村に乙津と養沢、両村で小宮村に（戸倉は旧村のまゝ）それぞれ形を改めて新発足した。その後大正7年五日市村と三ッ里村、明治村が合併して五日市町と大きくなり、さらに昭和30年町村合併促進法によって増戸村、五日市町、戸倉村、小宮村が合併して由緒ある町名の五日市となった。近年人口の都市集中化は著しく東京は過大都市となり三多摩にも伸び西多摩にも及んで来た。昭和37年首都圏整備計画による市街地開発地域に青梅、福生、羽村地区が指定を受け、昭和44年新都市計画法が五日市町にも指定された。その計画にもとづき、都道132号線の拡幅が決定され古い宿場である五日市の町なみも大きく変わる事になり特に隣接市町村の人口増にともなう大型スーパー、デパートの進出に対処する等、商和会の今後には問題が山積されている。35周年を迎え「土地のものは土地で」のスローガンを掲げて一大購売運動を起すと共に町の商業界が一つに結束してこの危機をのりこえて五日市町商業発展に寄与されたい。

35周年記念式典の風景

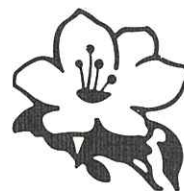


都道132号線拡幅による新旧のうつりかわり

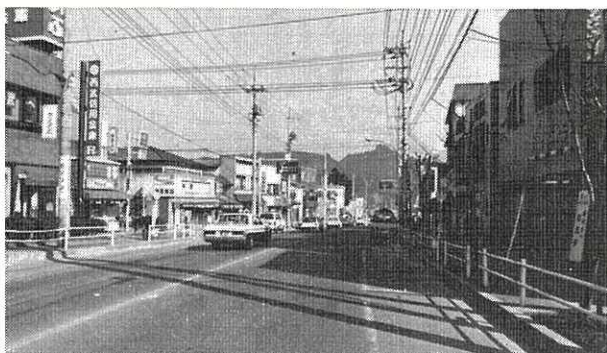


五日市駅前附近

▲新



▲旧



東町附近

▲新

▼旧



下町附近

▲新

▼旧



上町附近

▲新

▼旧



栄町附近

▲新

▼旧





▲新

小中野附近



▼旧

五日市町の人口と世帯数の推移

年 度	人 口	世 帯 数
昭和25年	14,751人	2,781世帯
〃 30年	15,094人	2,839世帯
〃 35年	14,835人	2,944世帯
〃 40年	15,406人	3,241世帯
〃 45年	16,710人	3,866世帯
〃 50年	18,708人	4,574世帯
〃 55年	20,003人	5,270世帯
〃 60年	21,033人	6,113世帯

各 部 概 要

総 務 部

五日市町商和会は、昭和26年に、下記の役員と59店の会員でスタートしました。

会 長 小川善右衛門 副 会 長 岩田金之助, 栗原浪吉
 理 事 近藤 栄, 前沢武次郎, 鈴木定一, 笹川栄治, 乙戸精一
 小峰森太郎, 原 欣哉
 監 事 鈴木鶴吉, 小峰利三郎

その後、昭和28年春に、仲町会員が脱会し五日市銀座を別に発足させる経過がありましたが、現在の商和会は、昭和30年に以下の役員構成で発足し、発展したものです。

会 長 小川善右衛門 副 会 長 近藤 栄
 総務部長 原 欣哉 事業部長 乙戸精一
 金融部長 鈴木定一
 理 事 笹川栄治, 小峰利三郎, 小峰森太郎, 岡崎芳雄
 監 事 野崎実三郎, 小室勘十郎

このように商和会が発足してから本年が35年目になりますが、この間、会員数、入会金及び会費は時代とともに以下のように変化し、また改正されてまいりました。

年 度	会 員 数	入 会 金	会 費 月 額
昭和26年	59店	300円	30円
昭和36年	81店	500円	150円
昭和46年	92店	5,000円	300円
昭和54年	85店	10,000円	1,000円
昭和60年	81店	10,000円	1,000円

すなわち、入会金、会費は昭和54年以降、現在に至るまでの7年間据置かれ商和会全般の収支を決済してまいりました。しかし、どの年度におきましても会費収入だけで決算できた年はなく、60年度についてみますと、会費収入は、

全収入の48%にすぎません。この不足分52%は、サービス券の販売を基とした事業部のすばらしい活躍と、金融部の金融政策による多大な貢献とによって、毎年70万～80万円のご援助をいただき、補ってまいりました。しかし、この事業部のサービス券の売り上げも、また、金融部の融資金額も昭和50年頃をピークに徐々に低下し、現在ではピーク時の66%までに減少しております。このような状況から、会費の値上げ等を含み、今後に大きな課題が残されております。

また、消費者にサービスし近隣商業地への流出を防ぐ目的で、昭和56年7月より商品券の販売を始めました。昭和60年3月31日をもって、第1回発行券・(有効期限4年、実質販売期間3年)の決済を致しましたが、その結果は次のようになり、なんとか黒字にすることができました。

○総売上枚数 11,256枚 ○総収入 5,538,567円
○回収枚数 10,834枚 ○総支出 5,381,035円 (回収率 96.25%)

また、商品券の利用価値も消費者に認められ、年々売り上げが上昇しております。これも、ひとえに商品券取扱店の御協力によるもので、深く感謝申し上げる次第でございます。

商店街も、都道 秋132号線の拡幅を期に近代化されましたが、現在、町の商業は食糧品店が中心であり、衣料、高級品などは購買者の近郊大型店への流出が目立ちます。さらに、スーパー等の進出で我々小売業者の販路が狭められてきている実状もございます。今後、それぞれの店が一致協力して消費者のニーズにマッチした特徴ある商品と販売システムを研究することによって、本会が一層発展することを願うものでございます。

尚、今回の創立35周年記念事業は、総予算 1,280,000 円で、次の通り実施されました。

1. 記念式典と演芸大会

日時 昭和60年11月17日(日) 会場 町民会館

内容 歌謡浪曲と町民カラオケ大会、入場先着300名様に記念品贈呈、
入場者全員に豪華賞品(自転車、筆筒)の当たる抽選

2. 記念誌「商和会のあゆみ」第3号の発行 ※因みに、第1号は10周年記念(昭和36年)、第2号は25周年記念(昭和50年)の際に発行されています。

3. 記念品(手提げ金庫)の配布

事業部

事業部の誕生は、昭和30年4月、初代会長・小川善右衛門氏が会の運営上、部を設けて独立採算制を採用した事に始まった。初代事業部長に乙戸精一氏が就任し、昭和49年まで部長として、大売り出し・観劇・招待旅行など数々の実績を残し、現在の事業部の発展の基礎を築かれた。この功績は実に大なるものがあつた。

サービス券発行については、昭和33年8月「黄色い旗の会」全国商店振興会に加入して今迄の行事の他に、100円お買い上げ毎にサービス券1枚(当時5円)を発行して振興会主催の民謡大会に出場して優勝したり、又サービス券での観劇・旅行なども行ない、昭和36年「黄色い旗の会」を退会するまでサービス券を発行し、商和会としてお客様に喜ばれながら、それなりの成果を挙げてきた。

同年4月より、商和会独自のサービス券を発行し、商和会として新しくお客様のサービスにふみきつた。その後、現在に至るまでサービス券を利用したの観劇・招待旅行・お買物にと、広範囲により実施してお客様より多大な評価を得ている。しかし、現在では他商店街やスーパーなども異質ではあるが、サービス券を発行しているの、当商和会も何等かの新しい企画が必要になってきた。

発足当時の試算として

年間売上 206,000枚×1円(5円のうち1円利用) = 206,000円
未回収5% 10,300枚×5円 = 51,500円
計 = 257,500円

現在は 750万枚×0.5円 = 3,750,000円 約14.5倍の実績である。

他地区チップ会との比較 (昭和58年度調べ)

名称	発足年月	加入店数	発行枚数	1戸当枚数	比率(%)
商和会	36年4月	63	816万	12,950	100
M	49年5月	117	1,855万	15,850	122.4
H	51年4月	40	525万	13,130	101.4
HS	46年9月	87	1,130万	12,990	100.3
A	50年8月	138	1,568万	11,360	87.7

金 融 部

商和会金融部の融資事業は、会員の協力と役員 노력により、発足以来、これといった事故もなく順調に発展してまいりました。

創立35周年にあたり、金融部のこれまでの経緯を簡単にたどってみます。

昭和28年6月、埼玉銀行へ転貸融資の依頼をし、中元資金及び年末資金の斡旋を行ないました。これを始めとして、8月には五日市農協よりの日掛融資も開始しました。

昭和30年には組織を改善して部制をしき、内部の強化と合理的運営を図ることになりました。そして鈴木定一氏を初代金融部長に迎え融資業務の円滑な運営のための基礎をつくりあげたわけです。

昭和34年4月、鈴木定一氏は総務部長となり、金融部員のなかから笹川栄治氏が金融部長を引き継ぐことになりました。

これより、昭和50年3月までの永きにわたり、金融部発展と融資業務拡大のために御尽力をいただきました。

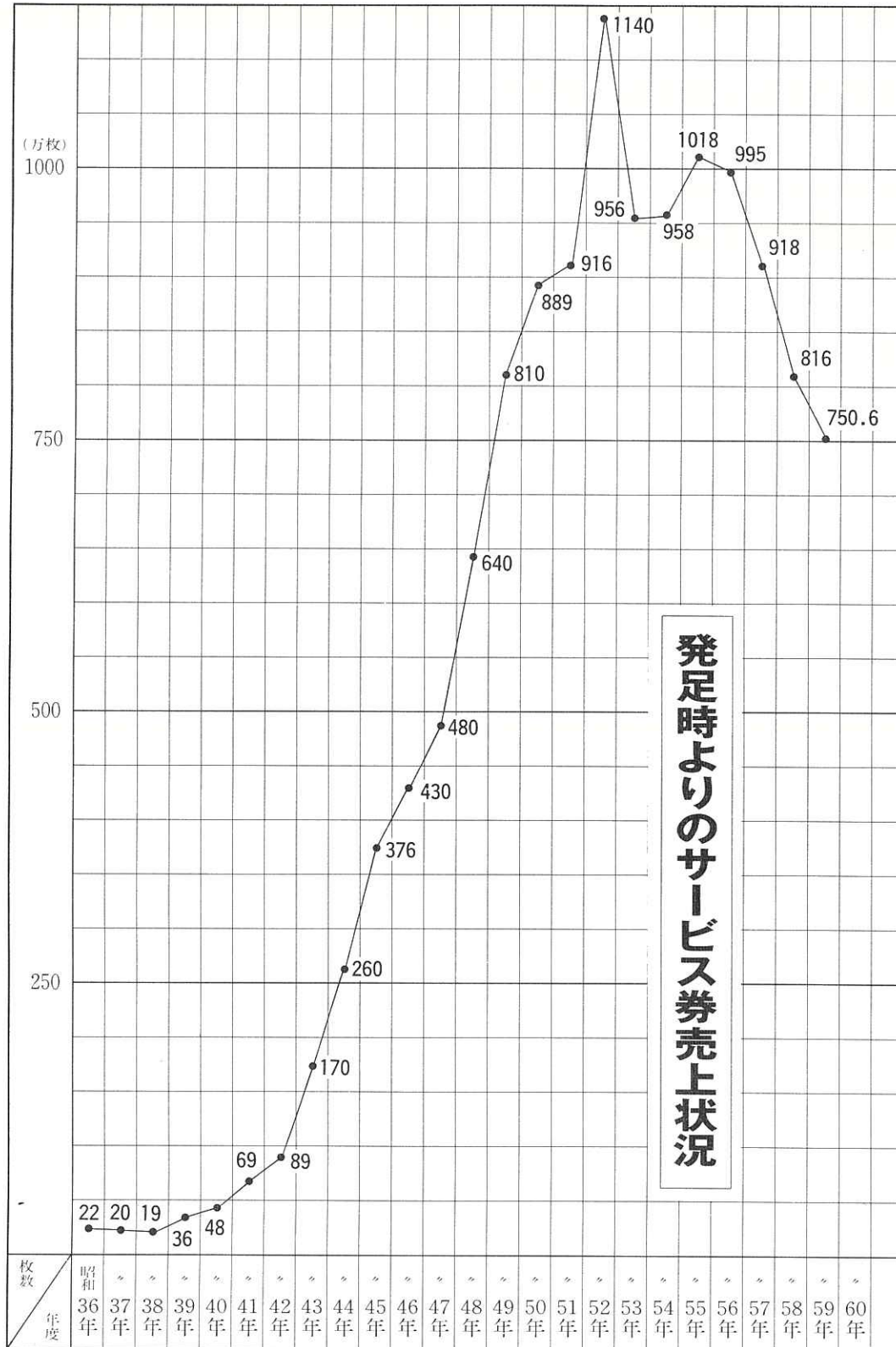
融資貸出業務開始以来、昭和34年には埼玉銀行・五日市農協よりの融資による貸出は総額で1,969万円、利用店舗では、延べ254店舗を数えるようになりました。

また、昭和38年より取引金融機関を従来の2行に加え、武陽信用金庫（現在西武信用金庫）と都民銀行が加わり、中元・歳末に加え、事業融資などの各種貸出も行なうようになり、質・量ともに充実させることができました。

これにより、会員の利用度も高まり、昭和39年には貸出総額で2,704万円、利用店舗数で、延べ334店舗の利用をみるようになりました。

以後、高度成長にともなう経済発展や、豊かな国民生活を求めるという好条件の時期もあり、またドルショック・オイルショックなどの経済の不安定な時期もありましたが、会員の堅実な経営努力と向上にともない、利用度も順調に推移してきました。

また、金融部門だけでなく、昭和44年3月より会員の福祉の充実・安定という目的で、明治生命福祉年金を取り扱うことになり、団体加入の募集を行ないました。そして会員の理解と協力により、口数52件・月額104,000円の加入を



得ることができました。

以来、16年間この事業も定着し、現在に至っております。そのなかで満期や新期加入もあり、多少の増減がみられますが、これを機会に、より多くの方の加入を進めていくところです。

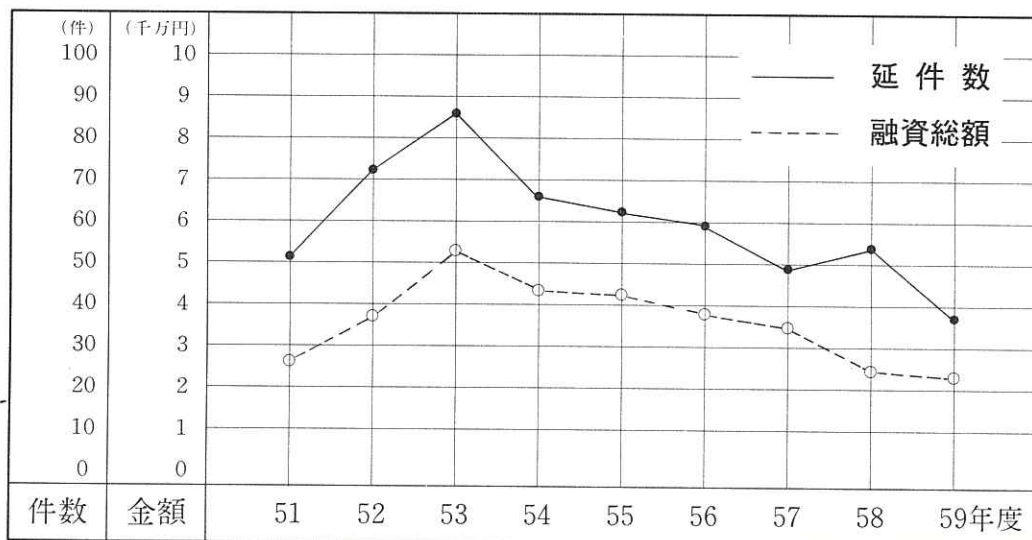
昭和52年3月になり笹川栄治氏引退のあとを受け、4月より高橋陸夫氏が金融部長を受け継ぐことになり、より一層着実な運営をして現在に至っております。しかし、最近10年間の貸出利用額では、昭和53年の総額5,264万円という最高貸出額を記録しながらも、徐々に減少の傾向にあります。これは、長引く不況の影響と、低成長時代という時代背景により、投融資を控えた堅実な経営へと転換してきたものと見受けられます。

また一方で、以前に比べ、各店舗が独自に金融機関や公共機関よりの融資を手軽に受けられるようになったことも要因として考えられます。

しかし、安定した経済成長のなかにあっても、景気の回復が見込まれることや、消費者ニーズの多様化への対応などにより、会員への貸出利用額も少しずつ増えてくることを期待しております。

そして、金融部は高橋部長を中心として、着実な運営と、会員の利用しやすい安い金利での貸出を目的に拡充発展させるよう努力してまいります。

最近9年間の転貸融資金額延件数



厚生部

厚生部の発足は各部より少し遅れて昭和34年4月より、初代厚生部長・小峰利三郎氏が就任した。従業員不足の当事、野球大会・盆踊りコンクール・大運動会・優良店員表彰・集団求人・店員講習会・海外旅行保険と、厚生部に関する行事が多かった。

野球大会は立川労政事務所主催の従業員野球大会で、昭和34年より昭和40年頃迄続き、立川市営球場、その他各地で試合をした。

大運動会も昭和34年より3年連続行なわれ、終了後優良店員表彰があり、現在新年会の席上で行なわれている永年勤続従業員表彰と合せ、延300名を超える方々が表彰された。

集団求人も昭和35年に青梅職業安定所事務官が来町し、14店23名の商店が求人申込みの書類を提出をしたり、個人でも遠方へ出向いて交渉した商店もあり当時も求人難であった。

店員講習会は昭和35年に講師に古家先生を招き「包装接客技術について」・「店員、店主ゼミナール」を弥生荘で開催した。昭和39年には講師に鴨志田先生を招き「包装ゼミナール」を東町会館でスライドを使用して開催。23名の方が出席した。

海外旅行保険を始めたのは昭和44年4月、38名加入で手数料収入は月額で、10,500円だった。会費の収入だけで総務部よりの収入に頼っていた厚生部も、漸く独立採算がとれるようになり、この海外旅行保険が後になって厚生部の大きな収入源になった。

昭和46年、第2代目厚生部長・小峰森太郎氏が就任した。この頃(昭和42年～昭和52年)事業部のサービス券の売上げが増大し、後に厚生部に福音をもたらした。

前会長・乙戸精一氏が五日市郵便局と折衝し、昭和54年6月、五日市町商和会簡易保険組合を設立した。この組合は五日市町商和会簡易保険組合の簡易保険加入者が保険料の団体払込制度を利用し、割引保険料(10%)をもって組合員及び商和会員相互の親睦と共同の利益をはかることを目的とし、当初は団体払込(前金)の資金が無いので事業部より730万円を借り受け、これに充当

した。組合員は毎月の掛金を西武信用金庫に積立て、団体払込（前払）に充当し、割引保険料10%のうち5%を組合員に還付し、残り5%は商和会の運営費と行事に使用することになっているが、現在は厚生部で管理、運営している。

五日市町商和会簡易保険組合員は払込団体の趣旨に賛同加入したものとなっているので、満期終了の方の再加入は勿論、組合員でない方の新規加入を心よりお待ち申し上げます。

従 業 員 研 修 旅 行

年 月 日	行 先	参加人数
昭和33年3月22日	東 京 行	名
〃 34年3月22日	東 京 行	名
〃 35年3月22日	城 ヶ 島	名
〃 36年3月7日～8日	伊 豆 大 島	名
〃 38年3月8日～9日	修善寺温泉一泊	53名
〃 38年8月22日～23日	水上温泉一泊	49名
〃 39年8月20日～21日	裏磐梯・飯坂温泉一泊	46名
〃 40年9月13日～14日	熱 海 一 泊	46名
〃 41年10月12日～13日	下田温泉一泊	27名
〃 42年8月11日～12日	熱 海 一 泊	45名
〃 43年8月12日～13日	日光・鬼怒川温泉一泊	48名
〃 44年8月15日～16日	霧ヶ峰蓼科高原・諏訪湖上祭	52名
〃 47年2月14日～15日	鴨川温泉一泊	25名
〃 48年3月	伊豆大島・熱海一泊	33名
〃 49年9月9日～10日	天 竜 下 り	48名
〃 50年10月13日～14日	白根山・善光寺参り・湯田中温泉一泊	34名
〃 51年9月22日～23日	会津若松城白虎隊出陣式	45名
〃 52年10月24日～25日	伊勢神宮と鳥羽一泊	43名
〃 53年11月6日～7日	信濃路・浅間温泉一泊	45名
〃 54年10月2日～3日	二本松提灯祭り	45名
〃 55年10月14日～15日	御前崎・身延山・サンホテル一泊	36名
〃 56年10月19日～20日	日光鬼怒川一泊	41名
〃 57年11月7日～9日	佐 渡 一 泊	34名
〃 58年10月23日～25日	京都名所巡り・大秦映画村	29名
〃 59年9月17日～18日	東京ディズニールランド	31名
〃 60年10月14日～15日	稲取温泉一泊	23名

回 想

黄色い旗の会

乙 戸 精 一

商和会創立35周年を迎え誠にお目出度う存じます。

商和会の事業としたサービス券が長い間の会員の御協力と役員の方の献身的な御努力によって予想以上の成績を収め、会の基礎が充実に、之に伴って各部が活発に活動出来て素晴らしい発展に連ったわけでありますが、商和会サービス券発行以前の、余り会員の記憶に残っていないと思われる「黄色い旗の会」について書いてみました。

昭和26年創立後、30年に会の組織を改善して部制を作り、内部の強化を図りました。1.総務部（原 欣哉）2.事業部（乙戸精一）3.金融部（鈴木定一）4.2年後に厚生部設置（小峰利三郎）、特に事業部の場合、年始、中元、歳末は勿論、祭典、催物等を利用して売出しをし、お客様にサービスをすると共に、多少なり共利益を上げて会の運営資金をつくった時でした。

当時、東京に本部のある全国商店振興会（黄色い旗の会）に昭和33年8月に加入致しました。券の運営は一切振興会が取扱い、利益は全部振興会に吸上げられる形でした。（1枚5円で買い、回収は4円）商和会もそのサービス券によって、甘納豆すくい、五日市劇場映画招待、新宿第一劇場、伊香保、伊東温泉、後楽園ナイター招待等、非常に苦難な時もありましたが当時としてはお客様には大変好評でした。振興会主催の東日本民謡コンクール大会では婦人部が出演、東京千駄ヶ谷の体育館で準優勝、翌34年8月には浅草の台東会館で優勝の栄冠を獲得した輝かしい記録も残っております。その後振興会の経営内容と商和会の将来性を考えて、昭和36年3月に振興会を脱会致しましたが、各商店とお客様の手持サービス券で約54万円位、当時の商和会としては全額負担する事は到底出来ないが、券の保有を最少限度にくい止める為、まだ振興会に加入していた調布の会長さん（魚屋）宅に行き券の処分をお願いし、又昭島の内田会長（菓子屋）宅へ、鈴木定一氏と何回も出掛けて菓子と交換をして商和会売出しの景品に利用したので10万円程度振興会のサービス券が減少致しました。尚、小川会長も振興会と何回か折衝の結果、1ヵ月4万円づつ11回の手形によって支払うよう協議できましたが、最終的に2回分だけ手形が決裁でき、あとの9枚（36万円）が不渡りとなり商和会の欠損となった訳ですが、脱会と同時に商和会独自のサービス券に切替えた為、売上も年々増加して経営面でも漸く明るさが見えて来ました。そして、第一回目の商和会サービス券の更新で予想以上の剰余金が出来た為、手形の不足分が会員に迷惑かけることもなく一挙に解決出来たと共に、当時御骨折を頂いた役員の方の御尽力で商和会の信用度が一段と見直され今日の隆盛の基となった事と思われまます。

年 表

年度	区別	商和会のできごと	町のできごと
天正2年			五日市の名がつかわれた
承応2年		五日市に市が開かれる	五日市に市が開かれた記録がある
明治4年			五日市郵便局出来る。西多摩郡は神奈川に入る
6年			勸能学校出来る
13年			五日市村が町になる。五日市憲法草案起草
16年			五日市町に大火があった
26年			神奈川県より東京府に入る
27年			青梅鉄道(立川-青梅) 開通
大正1年			西多摩に電燈はじまる
9年		電灯ともる	五王馬車(五日市-八王子) 開通
10年		和泉ヤ、栗原、花屋 福引売出しはじめる	五日市鉄道株式会社設立
11年		五日市商和会として連合売出しはじまる 17店	
11年		〃 年末売出し 24店	
14年			五日市鉄道(五日市-拝島) 開通 五王バス(五日市-福生) 開通
15年			五日市警察出来る
昭和3年			大久野に浅野セメント工場ができる
5年			五日市線立川迄のびる
9年		五日市町商業組合設立(理事長 石川虎一郎)	
14年		商業組合の売出し物資の統制により中止	
15年		商業組合九州、福岡の大会で模範組合とし表彰うく	
19年			都内爆撃され多くの人が移って来る
20年		商業組合解散となる	太平洋戦争が終る
22年		物資の統制もはずれ売出しはじまる	中学3年が義務教育となる
24年		歳末連合売出しはじまる	
25年			五日市高等学校設立
26年		五日市町商和会設立 会長小川善右エ門	副会長 岩田 金之助 栗原 浪吉
26年		街路灯の建設はじまる	
27年		納涼の夕を盛大に行なう	
28年		仲町会員脱退し銀座会をつくる	五日市保健所設立
28年		6月 中元資金の斡旋をはじめる	
30年		会長小川善右エ門、副会長近藤栄で組織を改善 部制をしき、内部の強化と合理化をはかる	五日市、増戸、戸倉、小宮合併 五日市町となる
33年		黄色い旗の会全国商店振興会に加入	山田に止水荘、高尾に焼却場出来る

年度	区別	商和会のできごと	町のできごと
昭和33年		従業員部組織定休日毎月22日とする勤続従業員表彰実施	国民宿舎 止水荘建設
33年		婦人部東日本民謡コンクール第2位となる	戸倉、小中野に給水開始
34年		婦人部東日本民謡コンクール第1位となる 第1回商和会大運動会を実施	第2代町長 谷合 昇氏決定
34年		従業員部を厚生部変更	町民集会場完成
35年		振興会のコンクール中止となり、五日市町民集会場 場で大会を開く	乙津簡易水道ができる
35年		定休日を毎月8日、22日、月2回とする	五日市町観光協議会発足
35年		野球部組織。社会科見学実施 第2回商和会大運動会を行う	増戸、戸倉、小宮出張所廃止、連絡所となる
36年 (会創立)		全国商店振興会脱退サービス課設置 10周年記念第1回記念誌発行	五日市線が電化となる。新五日市音頭発表
37年		商工会設立に本会代表発起人6名参画 立川労政事務所主催野球大会に参加する	五日市中学校校舎増築
38年		緑の券の引換が完了し、黄色い旗の会の決済すむ	五日市統合中学校設立
39年		ローズ券の引換が完了。ブルー券が新しく発行	小宮小学校設立
40年			五日市駅前に信号が出来る 水道事業、農協より町へ移管。NHKのど自慢
41年		権田坂に本会看板完成	戸倉浄水場できる
42年		新サービス券発行	自動電話になる。第3代町長 岸 義一氏決定
43年		東京12チャンネル町ぐるみワイドショー。小川会長死去	し尿処理場が秋多に出来る。五日市憲法草案発見さる
44年		郵政省保険開始	有線放送電話が出来る。高尾橋、小和田農免道路完成
45年		五日市銀座が商和会に合併を申込む	秋川消防組合設立。第1回演浄都市。五日市まつり
46年		ドルショックにより前途波多し	五日市町営グラウンドできる
47年		奥多摩街道開通し、車輛多く問題多し	戸倉発電所閉鎖。五日市に給食センターできる。 第1回五日市梅まつり
48年		オイルショックに端を発し、諸物資狂騰	増戸小学校に体育館できる
49年		不況にてお客のサイフはかたく、前途多難	第1回五日市町功労者表彰式典
50年		会創立25周年記念事業を行う。式典・記念誌の発 行・記念品の配布、総費用1,388,000円	第4代町長 栗原昇作氏決定 合併20周年記念事業を行う
51年		厚生部、新事業献血奉仕、82名参加 64名採血	都道 秋1.3.2号線拡幅工事開始
52年		パークショッピングセンター仲町にオープン	五日市図書館完成
53年		都道1.3.2拡幅のため東町地区の買収ほゞ完了	高尾清掃センター完成
54年		第4回五日市町産業祭に商和会員店23店初参加	合併25周年記念運動会。町の人口2万人に
56年		商和会の商品券取扱店72店で発売開始	五日市町郷土館オープン
57年		都道の拡幅も一段と整備されたが各業種共売上低下	阿伎留荘オープン。五日市中学校庭に夜間照明施設完成
58年		アイマーク五日市店出店計画概要書、商工会に提出さる	栗原町政 三選される
59年		第1回発行商品券販売終了(11,256枚売上)	五日市町新庁舎完成
60年		創立35周年記念事業として式典、演芸会、記念誌 「商和会のあゆみ」第3号を発行、記念品を配布する	町合併30周年記念行事を行う。 式典、五日市まつり、運動会、文化祭、産業祭。

会費及び総務部収支の推移

年 度	入会金	会 費	会員数	総 収 入	総 支 出
昭和26年	300円	30円	59店	77,220円	77,220円
27年	300円	100円	59店	163,000円	134,167円
33年	500円	100円	78店	252,000円	226,855円
35年	500円	150円	81店	314,391円	314,391円
44年	1,000円	300円	88店	686,734円	609,183円
46年	5,000円	300円	92店	1,011,022円	894,359円
50年	5,000円	500円	84店	1,184,150円	1,076,420円
54年	10,000円	1,000円	85店	1,696,728円	1,628,888円
59年	10,000円	1,000円	81店	2,015,837円	1,944,406円





総会会場等の推移











年 度	会 場	時 間
昭和26年～28年	菊 屋 (下 町)	午後1時より
29年	五日市町役場二階	午後2時より
30年～35年	紀伊国屋(仲町)	午後3時より
36年～44年	阿伎留神社社務所	午後2時より
45年～60年	下町会館・東町会館	午後6時より

会員の親睦旅行記

年 度	行 先	参加人員
昭和29年	伊豆大島・伊東温泉 …………… 1泊	34名
30年	木更津海岸竇立 …………… 1泊	42名
31年	筑波山大洗海岸那珂河魚釣 …… 1泊	25名
32年	伊東温泉・魚つり …………… 1泊	26名
33年	日光大祭・やぶさめ …………… 1泊	38名
35年	長岡温泉・あやめ祭り …………… 1泊	29名
36年	木更津海岸竇立 …………… 1泊	43名

※以後、中止となる。

歴 代 会 長			
昭和26年～43年  創立会長 故小川 善右工門	昭和44年～50年  故近藤 栄	昭和50年～60年  前会長 乙戸 精一	昭和60年～  現会長 小峰 利三郎

現 役 員 (昭和60年)		
総 務 部	 岩田 順一 副会長兼事業部長 役員就任 昭和32年	 鈴木 賢 事業部員 役員就任 昭和48年
	 中村 正義 総務部長 役員就任 昭和42年 (途中4年休)	 高橋 政市 事業部員 役員就任 昭和60年
	 高山 文三 総務部員 役員就任 昭和59年	 西深沢 清次 事業部員 役員就任 昭和60年
金 融 部	 内山 聖之助 総務部員 役員就任 昭和60年	 小室 実 事業部員 役員就任 昭和60年
	 高橋 陸夫 金融部長 役員就任 昭和36年	 飯田 延夫 厚生部長 役員就任 昭和50年
	 笹川 福一 金融部員 役員就任 昭和54年	 市倉 理男 厚生部員 役員就任 昭和54年
 鷺谷 恂 金融部員 役員就任 昭和60年	 高水 栄 厚生部員 役員就任 昭和60年	

商工業のご相談は商工会へ……

税務・金融・経営・取引・福祉
なんでもお気軽に……電話1本でOK



公益法人

五日市商工会

TEL. 0425 (96) 2511

貯金も
資金も農協



農協共済で

しあわせの輪をひろげよう

五日市町農業協同組合

東京都西多摩郡五日市町五日市3
TEL 0425(96)1431(代)
有線 4181・4314



「奉仕と信用」の精神のもとに
お役に立つ銀行を
めざしてまいります。

暮らしの友人



埼玉銀行



0425(96)1311
有線 4483

五日市支店

針路発見 提案します!



あわせ積金

備えの決めるは
まず

夢

100万円



奉仕で築く地元の繁栄

西武信用金庫 五日市支店

☎ <0425> 96-1811(代)